

大甕小学校通信

平成30年度 10月号
文責：大甕小学校長 林 典行

読書の秋 ～ 頭と心の肥やし ～

ついこの間までの猛暑が嘘のように秋風が吹き、澄み切った青空の広がる頃となりました。学習に、運動に、読書に、いちばんよい季節がやってきました。

今回は、「読書の秋」にちなみ、本を読む習慣の大切さについて考えてみたいと思います。

まず、学校図書館の蔵書数を調べてみました。平成27年度は10,020冊だったところ、昨年度は10,646冊となっております。ここ3年間で626冊増加したことになります。また、本校には南相馬市立中央図書館から司書の先生が派遣されており、図書室の蔵書管理、子どもが好みそうな本の購入、読書の啓発等に携っていただいております。子ども達にとって充実した読書環境が整っていると言えるのではないのでしょうか。

昨年度子ども1人あたりの貸し出し冊数は平均10.3冊と、比較的良好に読書しているようです。しかし、読む子はたくさん読むが、読まない子は、自ら進んではほとんど読まないといった状況もみられます。

本の好きな子は、自然に文字や言葉を覚えますし、読む力も身につけていきます。その力は、国語にとどまらず、算数をはじめ、各教科の理解力、思考力、表現力、集中力とさまざまな力に及びます。学力を向上させる近道は、まさしく「読書」といっても過言ではありません。

また、読書によって、子ども達は日常とは異なる世界へ発想を広げ、さまざまな出来事や心の動きを経験します。そして、ワクワク、ドキドキしながら、知恵や勇気をもって活躍する主人公に自分を重ねていきます。感受性豊かな子どもたちは、この読書の経験を通して、正義感や責任感、チャレンジ精神や思いやりの心などに触れ、豊かな心と人生を切り拓く力を学びます。このように、子どもを成長させる読書を小学生時代に好きにさせることがとても大切なことだと思うのです。

是非、家族で読書に親しんだり、好きな本のお話を話題にして話し合ったりという時間をもってほしいと思います。生活の中に「読む」という習慣が自然に根付いてくるようにしたいものです。それが、子どもを読書好きにする最も大切なことと考えます。



楽しい音楽会 ～ 開催～

9月28日(金)作曲家の青島広志先生と、テノール歌手の小野つとむさんがいらっしゃって、音楽会が開催されました。

ふれることができました。子ども達も楽しく聴いたり、ノリノリで歌ったりして、「音楽の秋」を満喫することができました。



童謡やクラシック、オペラなど、青島先生の軽快な話術とともに、プロによる本物の音楽に

10月の予定

- 4日(木) 南相馬市小学校鑑賞教室(下学年) 弁当日
- 7日(日) 大甕地区文化祭
- 10日(水) 弁当日 ※午後、相馬郡各小学校で研修会
- 11日(木) 弁当日 ※午後、就学時検診
- 12日(金) 原町区音楽祭(5年) 弁当日
- 20日(土) 学習発表会
- 22日(月) 繰替休業日

